



SECTION

142

地域のつながり  
から喜びへ



# 「地域のつながりから喜びへ」

社会福祉法人北海長正会 常務理事 中川 浩一

記録的な暑さが続いた二〇一五年夏、「今年一番の暑さに……」という見出しが何度もニュースで話題となりましたが、その暑さも漸く落ち着き少しづつ秋を感じられるようになつてきました。

北海道の気候は年間を通して気温・湿度ともが低く、四季の変化がはつきりしているのが特徴でしたが、今年の夏のような暑さが来年以降も続くようだと私たちの日々の暮らしや備えも変えていかなければいけないのかもしれません。

## 地域を支える法人の取り組み

法人は来年設立五十周年を迎えます。一九七七年に障害者のリハビリテーション施設「北広島リハビリセンター」に始まり、一九九五年に地域の高齢化に対応するためのサービス拠点として「四恩園」、二〇〇五年認知症の方々の通所拠点として「ディホームさとみ」、二〇一〇年住民交流・活動スペースを有した相談・通所介護拠点「地域交流ホームふれて」、二〇一四年同じく地域住民交流・活動スペースを有し北広島市地域密着型事業、サービス付き高齢者住宅の機能を持つ「地域サポートセンターともに」、二〇一五年在宅の障がい児者の相談・通所介護拠点として「地域サポートセンターみなみ」を開設、その時々の制度や時代の状況に

応じて法人事業を展開してきました。これからもそれぞれの施設・事業が地域の方々の生活を支え、地域にとって無くてはならない資源として、あそこにいる人がいる、そこに存在するという事業、法人であり続けたいと思います。

## 地域づくりの輪が広がる

地域における生活課題は様々です。人口減少、人出不足、孤立・孤独、地域の生活サービスの停滞などがあり、国や地方自治体は様々な取り組みを進めていますが、北広島市においてもここ数年の中で新たな取り組みやその成果が見られるようになりました。北広島市が国から受託した「生涯現役地域づくり環境整備事業」は三年間の限定事業ではありました

が多様な活動がこの事業によってスタートしました。新たな移動手段を模索した「モビリティ事業」、ドッグラン＆カフェによる出会いの場の創出した「ドッグラン事業」、トーチや薪づくりをビジネス化した「森林事業」、生涯現役の根幹となる健康づくりとして「フィットネス事業」が二〇一六年四月にオープンします。これらの事業は住民アンケート・企業アンケート調査、住民ワークショップを開催など住民の声を基に活動をスタートさせ、大勢の地域の方々に事業にかかわっても



## 賑わう街おこしと支えるスタッフ

七月六日、第三住区福祉祭りを皮切りに北広島団地地区内の夏祭りが始まりました。七月から八月にかけて開催された各住区並びに町内会の夏祭りは今年も大勢の方々が訪れていたようです。当法人もお手伝いをさせていただきましたが、ここ数年、幼児を抱えた若い夫婦や小学生と思われる子どもたちがずいぶん増えてきた印象をもちました。お祭りを企画し運営する住区（町内会）役員の方々の苦労は如何ばかりかと思いますが、お祭り当日の来場者の笑顔を見るところのうに人が集まり、語らい、喜びを分かち合う場は地域に欠かせない一要素と感じます。

九月六日、「ふれてフェスティバル」が開催されました。当日は天気にも恵まれ一二〇〇人の来場がありました。これ

からも当法人への支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## つながることから喜びへ

法人では、当法人サービスをご利用されているお客様を地域で開催される夏祭り、ふれて・ともにイベントにお連れさせていただいております。身体やこころが少し不自由であつても全てができない訳ではありません。手をあげてイベントに出演する、知恵を絞つて作品を作り販売する、そこから喜びを感じることもできます。日頃体験できない催しへの参加や懐かしい方々との再会は一住民として大変貴重な機会であると捉えています。

人は人とのつながりの中から生きることの喜びや幸せを感じることができます。地域で開催される地域づくりイベントが団地地区に活気をもたらし、これからも盛大に開催されることを切に願つものであります。

これからも当法人への支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 人と人のつながりから 生きることの喜びを知ろう!

ふれて  
フェスティバル  
2025

～大盛況のなか  
開催できました～

去る9月6日（土）朝から日差しが強い晴天の中、地域交流ホームふれてでは、ふれてフェスティバルが開催されました。ふれてフェスティバルは今年十五年目を迎えます。世代、障がいに関係なく顔の見えるつながりを、そして安心して生活出来る地域を作ることを主旨として、ふれて市民スタッフが中心となり運営しており、ふれて地元町内会や商店街の皆さん、地域の方々、四恩園の職員も力を合わせてこのフェスティバルを盛り上げております。

ふれてフェスティバルの売上は、北広島団地内のバス停や緑地帯にベンチを設置する活動や、ふれてで開催されるイベント、ミニ講座などに使われています。



2026年  
4月OPEN  
予定

## 心と体をつなぐ コミュニティフィットネス

- 運動：あなたの「～したい！」を叶えるセミパーソナルトレーニング
- 学び：専門職によるミニ講座（栄養・睡眠・生活改善等）を開催。
- 交流：運動後に喫茶で歓談。仲間と楽しく続け健康と絆が育まれる。



イラスト：高谷 里奈

ステージの熱気と観客の拍手で地域が1つにつながる！

## 第9回 ともに地域の学芸会

～雨にも負けず大賑わいでした～



去る10月18日（土）小雨まじりの天気の中、地域サポートセンターとともにでは、ともに地域の学芸会が開催されました。ともに地域の学芸会は今年9回目を迎えます。地域のシンボルであった旧緑陽小学校。秋には学芸会が行われ、小学生たちの素晴らしい発表を家族や地域の方々が拍手で見届けていました。当時の光景を再現するべく、ともに市民スタッフが中心となり、世代や障がいに関係なく誰もが楽しめるひとときとなっております。当日は地域の小中学校や養護学校の生徒、ダンスサークル、相撲甚句会などが出でてくださり、観客の拍手と相まって素晴らしい学芸会となりました。



## 「地域で暮らすということ」



講師

加藤 伸司 先生  
東北福祉大学教授  
認知症介護研究・  
研修仙台センター  
センター長

【とき】2025年11月22日（土）  
10:00～11:30

【ところ】北広島団地地域サポートセンターともに  
北広島市緑陽町1丁目2

【定員】50名

主催：社会福祉法人 北海長正会／共催：北広島市介護サービス連絡協議会

社会福祉法人 北海長正会

### 住民向け 公開講座

参加無料

【問い合わせ】  
担当：吉田・佐々木  
011-372-8110

# 回り道をしても、 またそこから始めればいい

# 新人職員インタビュー

4月より北広島訪問看護ステーション四恩園で作業療法士として勤務する今井貴裕さん、軽音楽に没頭した大学時代、先の事を悩んだ20代、遠回りをしてきたからこそ見えてきた「誰かの役に立てる仕事」にどう出会えたのか。当時の気持ちなどをお聞きしました。



## 訪問看護ステーション四恩園

作業療法士 今井貴裕



没頭したバンド活動、  
ギターを叩き割った事も…

自分は何に  
なりたかつたんだろ？

その後は「コンビニや駐車場の管理など、仕事を転々しながら作詞作曲や

働くなりきりとうとこう  
かもしけない

そぞそぞ遣<sup>ハシ</sup>仕事を探<sup>ハシ</sup>かなど  
思つていた頃、グループホームで働く  
父から「作業療法士になるために、学  
校に通つてみないか?」と話がありま  
した。今まで散々自由にしてきた自分  
にとっての責任のようなものも感じ  
学校に通う事を決意しました。

焦らず、自分のペースで

今は、北広島訪問看護ステーション四恩園の一員として、お客様のご自宅を訪問したり、法人内の施設の中で主に個別の機能訓練に従事しています。「元々集団より「一对一」の方が得意なので、楽な気持ちで進めていけています」

「なかなかこんな職場かもしないな」と  
思い、北海長正会に履歴書を送ること  
にしました。



日々できる事を積み重ね、お客様と接する

学校ではさまざまな病院や福祉施設で実習を経験してきました。「病院のリハビリ室は既に三十歳を超えていた自分にとって場違いのよう感じました」何となく違和感を残しながらも地域実習へ。「のびのびファイン（北広島リハビリセンター）で実習をした時、直感で『ここかもしけない！』って思えたんです」

ドーヨーにも興味があつたせいか、職員総出で行う施設のワックスかけに参加したことも楽しい経験で、「自分が働く

作業療法士として 人として 等身  
大で日々を重ねる今井さん。回り道をしても、またそこから始めればいいと  
いうことを改めて今井さんから教えてもらいました。これから今井さんの  
歩みを楽しみにしています。

栗山町で生まれ育ち、高校時代は弓道に熱中していました。大学では、学内の屋外ステージで観た先輩の演奏を

演奏を続けていましたが、音楽を仕事にすることには東京で音楽プロデューサーと関係を作っていくことが重要になるなど、趣味で楽しむのとは全く違うことに気がつき、その道に進もうと思いませんでした。

今回はサービス付き高齢者向け住宅し  
おんに入居されているお客様にインタ  
ビューさせていただきました。

### 三味線、華道、茶道に 打ち込んだ青春時代

# お客様

# 人生劇場

～笑顔で切り開く力～

藤岡 鈴子 様

昭和八年生まれ、現在九十二歳の藤

岡鈴子さんは旭川市で印刷工場を営む家に六人兄弟の五番目、三女として生まれました。十二歳くらい歳の離れた兄が父の印刷工場の跡を継いでから二五〇人くらいまで従業員を増やして工場を大きくし、鈴子さんは女中さんにお世話をもらつたそうです。

子どもの頃、昔はどこかの道路も土でしたが、近所の電話局の前だけはコンクリートになつており、そこで、縄跳びや石けり、チョークで落書きしたことよく覚えているそうです。近所の友人たちの家も皆、商売を営んでいたそうで、「米屋のよしひちやん元気かしり」と当時のことを懐かしがられていました。

女学校時代から、三味線、華道、茶

道を習っていたのですが、「お師匠さんは礼儀作法にとても厳しく、いつも怒られてばかりいたんですよ。お月

謝の渡し方なども細かいところまで注意されて」と笑ってお話しされています。

多忙な夫の分まで、  
家と子どもを守り抜いた

す。その後、高校を卒業しても就職はせず、三味線、華道、茶道を極め、すべて師範の資格をお持ちです。お料理も好きで、ご家族に料理をふるまつていたそうです。

ちょうどその頃、日本は戦争に突入し、女学生は労働力となり、鈴子さんは上級生が刈った稻を束ねて運んだ記憶があるそうです。兄も戦争へ招集されました。「終戦後、無事帰還した兄から、戦争の悲惨な話をたくさん聞かされました」と話しています。

行の方からお見合いがあり、銀行員のご主人と結婚。一男一女に恵まれました。夫の転勤で、横浜、富山、北見へ異動。札幌へ異動になつたことを機に、北広島に家を建てました。「もともと花が好きだったので、庭づくりにこだわり、自宅の縁側から庭を眺めることがとても好きだったんですよ」。

ご主人は残業や飲み会等の付き合いに誘われ、お付き合いで外出することで毎晩帰りが遅く、休みの日も麻雀などで毎晩帰りが遅く、休みの日も麻雀等が多かつたため、家で一緒に過ごしたという記憶がないそうです。「几帳面で誠実な性格だったため、断ることが出来なかつたんでしょうね」。時々、鈴子さんがご主人に不満をぶつけても、すべてを受け止めてくれるような



実家の印刷工場



三味線の発表会

温かいじ主人だったそうです。定年退職後、間もなくして、じ主人の病気が発覚し、病気が分かつてからは、あつたいう間に亡くなってしまったそうです。

ご主人が入院中、毎日見舞いや當時は病院に付き添つて泊ることもできましたが、ご主人は「家を空けるな」と言われており、あまり頻繁に行くことができなかつたそうです。「主人は家を大切に思つていたので、家を空けるなと言つていたんでしょう。代わりに娘が毎日見舞いに行つてくれたので、主人はとても喜んでいましたよ」娘様の結婚式で映した夫婦そろつた素敵なお笑顔の写真が今でも鈴子さんのお部屋に飾られています。

## 五十歳から営業職へチャレンジ

五十歳くらいの時、自宅に出入りしていた生命保険会社の営業の方から「働いてみないか」と説きを受け、人生初めての就職することになつたそうです。「何も知らない世界に飛び込んでしまいましたが、もうやるしかないと覚悟を決めて働いてみました」。保険の営業職では、集金の仕事もありましたが、「考えてみれば当たり前のことをなんですか、集金に行つたのにおつり用の小銭が必要なことがわからなかったが、「考へてみれば当たり前のことをなんですか、集金に行つたのにおつり用の小銭が必要なことがわからな



保険の営業職の送別会

## 引っ越ししても思い出のソファーを残したい

さんからは想像がつきません。

ご主人が病気で他界された後も、お気に入りの庭がある自宅で生活されていましたが、「九十歳を過ぎるとダメですね」と、お一人暮らしに不安を感じられ、以前から申し込んでいた自宅近くのサービス付き高齢者向け住宅しおんへおんへじ自宅を手放しご入居されました。「本当は自宅で生活したかったんですけど、『集金にきておつりを持つてこない人がいるのか!』とお客様に怒りました」とおもい出します。でも、そうやって失敗をしながらも頑張っているうちにお客様に覚えてもらえて、当時は大口の契約をたくさん取ることができたんですね」と当時を思い出します。

家庭と仕事を両立しながら勤務され、あつという間に勤続二十年が経ち、後輩に引継ぎを行つて退職されました。鈴子さんは明るく人当たりの良い性格なので、退職した後も後輩や同僚等から慕われる存在となりました。食事等のお誘いも続き、「気づいたら体重が大変なことになつていて。とても太つていた時代もあつたんですね」と笑つて話します。今はスマートな鈴子



安心して生活できる場所

たびにそのソファーに座ることができるので、もう何があつてもテイケアは辞められませんね」と笑つて話します。サービス付き高齢者向け住宅しおんへご入居された後も、ご友人やご家族が訪ねて来られたり、同じ建物の中で「健康体操」等に参加されたり、居室から見える緑や花を眺めながら、穏やかに生活されています。「しおんに入居したばかりの頃はとても寂しかったんですけど、今はいつも関わってくれるケアマネも、看護師も、ヘルパーもみんな近くにいて、何かあつたらすぐに相談できるから、ここに入居して本当によかったです」と思っています。

(インタビュアー 松崎 千絵)

**社会福祉法人 北海長正会 2024年度決算概要**  
**(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日**

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	介護保険事業収入	801,539,000	796,333,000	5,206,000	
	老人福祉事業収入	57,900,000	58,646,900	△746,900	
	障害福祉サービス等事業収入	647,506,000	646,242,877	1,263,123	
	医療事業収入	21,744,000	22,099,915	△355,915	
	その他の事業収入	12,033,000	16,341,415	△4,308,415	
	経常経費寄附金収入	716,000	746,000	△30,000	
	受取利息配当金収入	29,000	121,572	△92,572	
	その他の収入	8,015,000	14,284,152	△6,269,152	
	事業活動収入計(1)	1,549,482,000	1,554,815,831	△5,333,831	
	人件費支出	1,069,656,000	1,076,338,404	△6,682,404	
支出	事業費支出	246,520,000	243,549,790	2,970,210	
	事務費支出	105,503,000	98,230,576	7,272,424	
	利用者負担軽減額	92,000	72,555	19,445	
	支払利息支出	2,912,000	2,684,953	227,047	
	その他の支出	2,000	1,151	849	
	事業活動支出計(2)	1,424,685,000	1,420,877,429	3,807,571	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		124,797,000	133,938,402	△9,141,402	
施設整備等による収支	施設整備等補助金収入	675,000	1,104,000	△429,000	
	固定資産売却収入	635,000	735,000	△100,000	
	施設整備等収入計(4)	1,310,000	1,839,000	△529,000	
	設備資金借入金元金償還支出	36,324,000	36,318,000	6,000	
	固定資産取得支出	5,534,000	5,182,317	351,683	
支出	ファイナンス・リース債務の返済支出	8,305,000	8,070,409	234,591	
	施設整備等支出計(5)	50,163,000	49,570,726	592,274	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△48,853,000	△47,731,726	△1,121,274	
その他の活動による収支	積立資産取崩収入	5,590,000	20,080,837	△14,490,837	
	その他の活動による収入	700,000	930,000	△230,000	
	その他の活動収入計(7)	6,290,000	21,010,837	△14,720,837	
	長期運営資金借入金元金償還支出	4,992,000	4,992,000	0	
	積立資産支出	50,392,000	60,692,805	△10,300,805	
支出	その他の活動による支出	680,000	780,000	△100,000	
	その他の活動支出計(8)	56,064,000	66,464,805	△10,400,805	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△49,774,000	△45,453,968	△4,320,032	
予備費支出(10)		0	-	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		26,170,000	40,752,708	△14,582,708	
前期末支払資金残高(12)		295,068,631	295,068,631	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		321,238,631	335,821,339	△14,582,708	

今号の表紙は、訪問看護をご利用されているお客様が、外出行事にてエスコンフィールドにお出かけになられた時のお写真を掲載させて頂きました。在宅酸素の生活になってから外出がしづらくなってしまいました。

元々野球は好きで、ご自宅からエスコンフィールドが見えるので、いつかは行ってみたいと思っていたそうです。外出行事の前から清宮選手のユニフォームを購入し、ベッドから見える場所に飾って外出当日を楽しみにされていました。エスコンフィールドの見学後には回転寿司でお寿司と日本酒に舌鼓を打たれながら余韻を感じいらっしゃいました。

この広報誌のアンケートにご協力ををお願いします。こちらから↓



●発行者 **社会福祉法人 北海長正会** ●ホームページ <http://www.shionen.or.jp>

●住 所 〒061-1153 ●E-mail [tokuyo@shionen.or.jp](mailto:tokuyo@shionen.or.jp)

北広島市富ヶ岡509-31

●T E L (011)373-6655

●F A X (011)373-6611

●編集発行 広報委員会

●編集発行責任者 理事長 三瓶 徹

●発行日 2025年11月

